

議 事 録

件 名	第 21 回（令和 4 年度第 2 回）セーフコミュニティ外傷等動向調査委員会	
日 時	令和 4 年 12 月 21 日（水）10：00～10：50	
場 所	えーるピア久留米 210・211 研修室	
出席者	委 員	山下 典雄 委員 久留米大学 医学部教授（委員長） 爲廣 一仁 委員 社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院 救急救命センター長 中尾 直人 委員 損害保険ジャパン株式会社 担当部長兼久留米保険金サービス課長 仲 賢一郎 委員 久留米広域消防本部 救急防災課長 吉田 まり子 委員 久留米市保健所長 黒岩 竹直 委員 久留米市協働推進部長
	事 務 局	柳主幹（安全安心推進課課）、堤次長、小野主査（総務医薬課）
	対 策 委員会	今村課長（交通安全、防犯）、植松補佐（高齢者の安全）、野口課長、寺松主幹（児童虐待防止）、水落次長（DV 防止）、佐野主幹（防災）、伊藤主幹、池田（自殺予防）
欠 席 者	三宮 貴彦 委員 久留米医師会 理事（副委員長）	
傍 聴 者	なし	
次 第	1. 事前指導 （1）開会 （2）出席者紹介 （3）プレゼンテーション発表 （4）質疑応答 （5）閉会	
質 疑 審 査 員 【チ ョ 先生】	27 項の人口 10 万人当たりの一般刑法犯認知件数を国、県と比較したグラフについて。久留米市の値を全国や県と時系列で比較した場合に、いずれも同じような傾向で変化していると、SC の成果がわかりにくい。 例えば、23 項の人口 10 万人当たりの交通事故件数だと、全国と県の値と比べると久留米市は減少幅が大きいので、SC の成果が分かりやすい。 韓国でも同様に、SC の成果を可視化するのに苦慮している。 全国や県と同じ傾向であったとしても、SC に取り組んでいなかったら差が広がっていたかもしれないとも考えられる。 予防とは、起きてないことを防いでいるので成果を示すのが難しい。市民も体感しづらい。全体の数字にすると成果が見えにくくなり、平準化されてしまう。 だから、ある特定のグループをターゲットにした取り組みにおいて、そのグループでこういう数値がでているというふうに見ていくと、成果が分かりやすくなる。ターゲットを明確化し、具体的な数字を追っていくと成果が説明しやすい。	

議 事 録

審 査 員

【ワン先生】

チョ先生と同じことを考えながら聞いていた。

他の自治体と比べた際に、久留米市の利点は外傷等動向調査委員会があること。原因を追及できる仕組みがあることが久留米の特徴。原因が分かることで、より効果的な対策を講じることができる。

国では法律を整備し規制を行う。県でも条例等がある。そうした共通の条件下において、さらに久留米市は SC に取り組んでいる。久留米市は、他と比べこれだけ減ったと整理していけば、プラスアルファの SC の取り組みが成果を生んでいると言えるのではないかな。国と県と久留米の違いはどうして生まれているのかを整理すると見えてくると思う。難しいが、一度チャレンジしてみてもどうか。

既に体制が整っていれば、何が原因か明確化すればターゲットが明らかになるので、そこがどう変わってきているのかを見ていけば、この対象、この場所とみていけば、国や県の数字を上回る数値が既にでていないかと思う。そこが継続していることの成果なので、本番ではその点をだして欲しい。

また、病気を除く死亡原因の順位を時系列で見ると、自殺が 1 位など大きな傾向は変わっていない。本審査では変わっていない原因などに触れてみると、より成果が見せることができるのではないかな。